

さいたま市長 1 月定例記者会見

平成 31 年 1 月 22 日（火曜日）

午後 1 時 30 分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社、埼玉新聞社さん、進行をよろしくお願
いいたします。

○ 埼玉新聞 1 月の幹事社を務めます埼玉新聞社と申します。よろしくお願
いします。
それでは、本日の記者会見内容について市長からご説明お願
いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
年末からほとんど雨の降らない天気が続き、かなり空気が乾燥してい
ます。市内でもインフルエンザの流行が始まり、1 月の第 2 週には 1 医療機
関当たりの 1 週間の患者数が 30.46 となり、流行警報開始基準値の 30 人
を超えました。

1 月 21 日、昨日の市立の学校の学級閉鎖の数は小学校 18 校となってい
ます。1 月下旬から 2 月までにピークを迎えるということですので、特に高
齢者の方々には十分注意していただきたいと思います。

よく言われることですが、外出後の手洗いとうがい、また室内の適度な湿
度、そして体の抵抗力を高めるための十分な休養とバランスのとれた栄養摂
取を日ごろから心がけていただきたいと思います。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。

市長発表：議題 1 「見沼グリーンセンターがグローバル GAP 認証を取得しました」

本日の議題ですが、「見沼グリーンセンターがグローバル GAP の認証を
取得しました」について説明をさせていただきます。

北区にございます見沼グリーンセンターは、昭和 57 年に農業振興の拠点
施設として、研修機能を備えた施設として市民の森にオープンしました。今
回、さいたま市内で初めてとなります、国際的な農業認証基準となっており
ますグローバル GAP をさつまいも栽培で取得しました。

この「GAP」を直訳しますと、「よい農業のやり方」、「グッド・アグリ
カルチュラル・プラクティス」の略ということですが、日本語では「農

業生産工程管理」と言われております。具体的には食品安全あるいは環境保全、労働安全に関する点検項目を定め、これらの実施、記録、点検、評価を繰り返し、生産工程の管理・改善を行う取組でございます。

GAPには、埼玉県が取り組んでおりますS-GAPのように都道府県単位で取り組んでいるものや日本版の認証制度でありますJGAPあるいはASIA GAPなどがございます。

今回、見沼グリーンセンターが取得をしたグローバルGAPは、世界120カ国以上に広がり、認証件数は19万件を超えております。事実上の国際標準となっております。

なぜ今このGAPなのかということではありますが、近年のGAPの認証取得の動きが活発となってきております。その理由としては、「消費者の食の安全・安心への意識の高まり」や「環境保全に対する世論の高まり」といったことが背景にございます。これらを背景として、国内の大手チェーン店を初めとして、農産物に対してGAP認証を求める動きが広がっております。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック大会におきましては、GAPの取得が食材の調達基準となっておりまして、気運醸成が図られております。

GAPの取組には、「食品安全」あるいは「環境保全」、「労働安全」の3つの側面がございます。その取組のメリットとしては、(農産物の安全性と)作業の安全性 (が高まり)、農業経営の改善、リスクの低減といったことが可能になるなど、作業の効率化、農薬・肥料の無駄の減少などによりコストの低減などが図られるというものでございます。

さらに、認証を取得することによりまして、信頼できる農場であることをアピールでき、販路の拡大にも効果があり、持続的な経営発展が可能となるものでございます。

さいたま市では「成長加速化戦略」に位置付けております「地場産農産物の農商工連携やブランド化の推進」の取組の一つとして、農業経営者等を対象としてGAPの取得を支援しております。特にヨーロッパ野菜等のさらなる販路拡大に向けて、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会における食材調達基準ともなっておりますGAPの取得を支援しております。

その一環で、先行モデルとして見沼グリーンセンターにおいてグローバルGAPの認証を取得しました。

見沼グリーンセンターでは、4月から、グローバルGAPのチェック項目218個について内部点検を実施しまして、所内においてグローバルGAPの理解を深めました。

また、農場の衛生手順や農薬取扱手順といった農場のリスク評価を実施、作業の手順書の作成や作業記録簿の見直し等を行い、ルールの周知徹底を図るため職場内研修を実施しております。

さつまいもの収穫時期に合わせた10月に認証審査を受けまして、是正指導のあった点について改善を行い、12月にさつまいもの栽培で認証を取得しました。さつまいもは本市の特産物で、県下においても有数の栽培面積を誇っており、本市発祥の紅赤も、お菓子などの商品化も進められております。GAP認証によるPRを図り、販路の拡大、さらには収益の増につなげていきたいと考えております。

また、市としては、今年度よりGAP認証取得を推進するため、農業経営者等を対象として、第三者認証GAPの取得にかかる費用の一部を支援する制度を創設しました。内容としては、認証取得に必要な調査費用やコンサルタント等による指導の受講、認証に必要な備品等の導入費用などの支援を行います。

また、審査機関によるGAP認証の農場審査費用や研修の受講、また開催費用についても支援をしております。

今後の取組としては、先ほどの認証取得の費用にかかる支援以外にも、GAPの意義、必要性、導入のイメージ等を知ってもらうために講習会等を開催し、GAPの周知を図ってまいります。

また、見沼グリーンセンターで認証取得した経験を生かして、研修会の実施や、また導入意欲のある生産者等へのアドバイスを行ってまいります。

目標としては、平成32年度末までに取得農家数を11件以上にしていきたいと考えております。

2020年に控えております東京オリンピック・パラリンピックへの食材供給として、海外から訪れる方々に安全な農産物を供給し、日本食材の素晴らしさを伝える上で、GAPはおもてなしの心の示し方として大変大切な取

組であると考えております。市内農産物への信頼性の向上、また流通の販路拡大を目指し、GAP認証の取得を推進してまいりたいと考えております。

私からは以上です。

○ 埼玉新聞

ありがとうございました。

市長からのご説明について、各社さん質問をお願いします。

議題に関する質問

○ 日本経済新聞

日経新聞です。よろしくお願いします。

自治体レベルで、自治体の例えばこういったグリーンセンターであったりとか、自治体がこういうGAPを取得するというのは、ほかの地域とか全国的に比べて珍しいことなのかどうなのかというのを教えていただきたいのと、あとお話にもあったヨーロッパ野菜研究会の方々自身もGAP取得のために準備、ずっと重ねてきていらっしゃるかと思うんですけども、個々のこういった農家の方々が取得するというのと、グリーンセンター自体が取得するというのとどう違うのか、それによってどういうメリットがあるのかというのをもうちょっと教えていただけますか。

○ 市長

まず、自治体の取組の状況ですけど、グローバルGAPの取得ということで、政令指定都市では初めてと聞いておりますが、担当から補足説明してもらいます。

○ 事務局

自治体での取得状況ですけども、こういった市町村の市立農場としてはグローバルGAPの取得は初めてです。ただ、例えば県の農業大学校ですと今3校がグローバルGAPを取得しています。あと、公共関係でいうと、農業高校で今、グローバルGAPを全国で8校取得していると聞いております。

それから、GAPの取組自体は基準書がありまして、それがいろいろなチェック項目で、ちゃんとできているか、できていないかで認証を受けられるということですけども、個々の農家さんが取られるということとグリーンセンターで取るということは、取組自体は全く同じものです。ただ、グリーンセンターとしては、これからさいたま市内の農家さんにGAPの取組を推進していく上で、まず行政が先頭になって取り組んでいくということで、今回モデルケースとして取組を行ったところでございます。

○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

認証取得の効果というか、一番最後のところの今後の取組というところ

で、目標として市内農産物の信頼性の向上、流通の販路拡大というふうに、ちょっと漠然としているんですけど、例えば具体的に東京五輪の選手村の食事にさいたま市産の野菜を供給するとか、そういう具体的な目標というのは何かございますでしょうか。

○ 市長 今、特にということであれば、ヨーロッパ野菜でGAPの認証を目指しておりますので、特に海外から来られた方々にとって、やはりヨーロッパ野菜は、それぞれのヨーロッパの国においては、ふるさとの農産物になると思いますので、それが安全な形で日本で提供できるということは、私たちにとっても(一つの) 売りになるのではないかと考えております。これまでヨーロッパ野菜というブランド化を目指してきたさいたま市にとっても非常に重要なテーマだと思っておりますので、そこについては特に推進をしていければと思っております。

○ 埼玉新聞 選手村 (を目指すということですか)。

○ 市長 そうですね。

○ 日刊工業新聞 日刊工業新聞と申します。

既に個人の農家さんで、グローバルGAPを取得していらっしゃる農家さんがあるのかということと、これ一般的な農家さんで、コストはどのぐらいかかるのかということと、どのぐらいハードルが高いのかということをお教えください。

○ 事務局 グローバルGAPの認証取得の状況ですけれども、国内でグローバルGAPを取得している件数が約630件、埼玉県ですと4件、今回、見沼グリーンセンターが1件ということで、さいたま市内はグリーンセンターが初めてでございます。

それから、費用の関係ですけれども、認証の審査費用が大体約30万円から40万円ぐらいかかります。これは、農場の規模や品目によって変動するところですが、やはり費用がそれだけかかります。大体準備にかかる期間、審査会社の方に聞いたりしますと、通常1年ぐらいかけて準備をするところが多いということでございます。

○ 読売新聞 読売新聞です。

GAP取得にかかわるコストの一部を支援ということですが、こちらの支援は予算として計上されていらっしゃるのか、事業自体はいつまでか

れるのかというところを伺えればと思います。

- 事務局 補助事業につきましては、農業政策課でやっておりますけれども、予算計上はしております。目標としています成長戦略と同じ形で、5件の補助を予算計上しております。1件当たりの補助に関しましては、先ほど申しましたとおり取得にかかる審査費用等々、あとはその条件をそろえる施設整備が必要となりますので、その施設費用に対しての補助といったもの、あとは研修費用、そういったものに対しての補助ということで予算計上をしております。
- 読売新聞 期間はいつまで。
- 事務局 期間につきましては、取得に関してですので、単年度となっておりますけれども、(支援事業自体は、成長加速化戦略に位置付けられている平成32年度までの3年間で、その後見直しを行う予定です。)

幹事社質問：4月の統一地方選挙について

- ① 引き続き、または新たに市議を目指す方への期待。
- ② 前回の市議選での北区が無投票だったことへの振り返り
- ③ 若い有権者への期待

- 埼玉新聞 それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。質問は3点ありますので、よろしくお願いします。

まず1点目、今月29日、4月の統一地方選のさいたま市議会議員選挙立候補予定者説明会が行われます。引き続きあるいは新たに市議会議員を目指す方にどんなことを期待しますか。

2点目です。前回の市議会議員選挙では北区が無投票でした。これをどう振り返りますか。

3点目です。公職選挙法改正で選挙年齢が18歳に引き下げられて以降、今回が初めての市議会議員選挙となります。若い有権者にどのようなことを期待しますか。

以上、3点です。

- 市長 それでは、幹事社からのご質問に順次お答えしたいと思います。

まず、1点目でございます。引き続き、あるいは新たに市議会議員を目指す方にどのようなことを期待しますかということですが、前回の選挙では地方創生の推進というのが大きなテーマの一つであったと考えております。中

でも地域の特色を活かしながら、人口減少対策、また地域活性化を進めていくための考え方などが問われるということを申し上げました。今回は、そういう意味では、さいたま市としても、あと10年ぐらいでそういった（人口減少）時代を迎える、あるいは急激な高齢化、少子化が進んでいる中で、これに対して具体的にどういった形で解決していくのか、そのための取組はどう行うべきかということが1つの争点になってくるのではないかと考えております。

また、これから大きな時代、社会の変化の中、生産年齢人口が減少していく中で、働き方改革といったものを強力に進めていくために、生産性向上を含めたICTの活用であるとか、あるいは特色ある人材の育成といったものが、基礎自治体のレベルでどのように進めていくのかということ、時代に合ったさまざまな政策について積極的に論争をしていただきながら、やはりその解決能力、またはその情熱、そういったものをしっかりと持った、また、大変そのような思いの強い方々にぜひ勝ち上がってきていただいて、頑張っていたいただきたいと考えております。

次に、前回の市議選において北区の無投票という状況がありましたけれども、前回のさいたま市の北区に限らず、地方選挙においては無投票であるとか、あるいは立候補者が定員に満たないなど、有権者の政治離れが大変深刻であるということを肌で感じているところでございます。

政治を通じて、これから地方を変えていこうという課題を積極的に見つけて、そしてそれを解決するために取り組んでいこうという情熱を持った政治家、あるいは政治家希望の人材を地域がしっかりと育てていくということが必要になっているのではないかと思っております。

地方自治は、民主主義の学校という言葉もございます。さまざまな課題を、地域の中で課題として捉え、解決するための取組をしっかりと住民の皆さんが考えていく、またそのための仕組みをしっかりと作っていくということが重要であると考えておりますので、そういう意味で、地方選挙についての関心をより一層呼び込んでいくためのさまざまな努力をいろいろな方々が、私たちも含めて取り組んでいくことが必要だと認識をしております。

また、最後に若い有権者への期待と呼びかけについてでございますが、ちょうど選挙権年齢が18歳以上に引き下げられてから初の国政選挙であ

りました平成28年7月の参議院の通常選挙では、18歳、19歳の投票率は、さいたま市では55.38%ということで、特に18歳は60.24%ということで、市民全体の投票率を大きく上回る結果となりましたが、しかしながら、その後に行われた選挙では、18歳、19歳の投票率は市民全体の投票率を下回る結果となっております。

18歳選挙権が導入されて初めてとなります今回の市議会議員選挙は、普段の生活に密着した最も身近な市民の代表を選ぶ選挙であります。さいたま市の未来を考える貴重な機会となりますので、将来を担う若い人たちには、ぜひ、興味、関心を持ってもらい、積極的に投票参加をしていただきたいと考えております。

また、投票参加の呼びかけに関しましては、他の世代と比べ投票率が低い傾向にある若年層に向けまして、3月ごろからさまざまな啓発活動を進めていく予定であると選挙管理委員会から聞いているところでございます。

以上です。

- 埼玉新聞 代表質問の説明に関して質問がある方お願いします。

幹事社質問に関する質問

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

若い有権者への呼びかけというところなんですけれども、市長はかねてよりシチズンシップ教育の必要性ということを説いていらっしゃいますけれども、市立学校等で選挙についてこのような授業をやっていこうとか、そういった施策みたいなものはございますでしょうか。

- 市長 この部分については、選挙管理委員会からお答えさせていただきたいと思っております。

- 事務局 まず、いわゆるそういった教育部門としましては教育委員会と連携いたしまして、市立小中ですが、選挙の出前講座を拡大して、数多く実施するようにはしております。

また、対象はこれまで小学校に限定していたのですが、今年度から(中学、)高校、大学にも幅を広げまして、若い世代に実際に選挙に行っていただくために、(選挙の大切さを訴える)呼びかけを実施しております。

- 時事通信 時事通信と申します。

前回の選挙で北区が無投票だったということで、先ほど選挙の投票に関し

での啓発というのはあったかと思うんですけど、いわゆる、なり手をどう育成していくかという部分で、その部分にはどのようなことを考えていらっしゃいますでしょうか。

- 市長 先ほど選挙課からお話をした部分もありますし、あと直接の選挙以外にも、タウンミーティングなどで中学生、高校生、あるいは大学生の皆さんに参加をいただいて、市に対するいろいろなご意見を聞いたりしています。やはり選挙そのものはもちろんですけども、市の行政であるとか、あるいは身近なまちづくり、そういった環境について、やはり関心を持ってもらうということが大変重要だと思っております。選挙そのものに参加をしていただくということだけではなくて、自分たちのまちづくりに関心を持ってもらうというようなこと、そして、その中で自分たちは一体何をすべきなのかということについても、しっかり考えてもらうことも併せてやりながら、やはりなかなかこれをやれば一挙に改善するという特効薬みたいなものはないと思いますが、そういったことを地道にやっていくことが、投票率アップ、あるいはそういった関心を呼び起こすことにつながっていくのではないかと思っております。

- 埼玉新聞 それでは、そのほかの質問がある方お願いします。

その他：毎月勤労統計調査の不正について

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

国の話なんですけれども、厚生労働省による毎月勤労統計の不正調査が明らかになりました。市でもいろいろサンプル抽出調査等々を行っているかと思えます。受けとめをお聞かせいただけますでしょうか。

- 市長 毎月勤労統計調査など基幹統計調査というのは、公的統計の中核となる大変重要な統計調査であるという認識を持っておりますが、それが誤った手法で行われていたということは極めて遺憾でございます。

やはりいろいろな施策を考え、あるいは、さまざまな国民への行政サービスなどを検討していく上で、大変重要な調査となりますので、そういったことのないように努めていくことが必要だと考えております。

- 埼玉新聞 差し当たって、具体的な影響みたいなものはございますでしょうか。

- 市長 まず、さいたま市への現時点での影響でいいますと、さいたま市民経済計算の推計に該当データを使用しています。

今後、ほかにどのような影響が出るのか、今後の国の調査や対応を注視しながら、さいたま市としてもその影響について精査していきたいと考えております。

その他：インフルエンザについて

○ 埼玉新聞

埼玉新聞。

冒頭にもございましたけれども、インフルエンザが非常に流行期を迎えています、改めまして市民の皆さんに呼びかけをお願いいたします。

○ 市長

冒頭のご挨拶でも申し上げましたけれども、非常に今、雨が少ないという状況になって、非常に乾燥が続いている状況で、このインフルエンザが流行しやすい、そんな環境がございます。そんな中で、今、既に注意報から警報のレベルに入っております。ピークは、これからまた来ると言われておりますので、くれぐれも、やはり外出後のうがい、手洗い、あるいは休養であったり、あるいは睡眠をよくとることであったり、体調に気を付けていただきますとともに、せき等が出る場合には、マスクなどを着用していただき、ほかの方々に移りにくい環境を市民の皆さん一人一人が、心がけて取り組んでいただくことが重要になると思いますので、ぜひ皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

幹事社質問に関する質問

○ 朝日新聞

朝日新聞です。

統一選の話にちょっと戻りますけれども、市長も当然市議会には並々ならぬ関心をお持ちだと思いますが、そういう意味では与党になるような方々に対する応援というの、当然マイクを握られたりするような機会が出てこようかと思っておりますけれども、皆さん、自民党が今2つの会派に分かれておりますけれども、清水市長からすれば、やはり与党的な立場の自民の方であっても、支援するような形を今回もとられるようなことになるのか、その辺についてお聞かせいただけますか。市長のスタンスについて。

○ 市長

これまでの選挙でもそうでしたが、同じ方向の中、考えていただいている、同じ思いを持つ議員の皆さんを、支援等々の要請があれば、できる限りの協力はしていきたいと考えているところでございます。

これから、さいたま市にとって大変重要な時期を迎えてきますので、議会との関係で言えば、当然、是々非々ということでもありますけれども、しっか

りと議論がお互いのできる、そんな関係の議会と執行部でありたいと思っております。

私としては、そういう意味ではしっかりとした考え、方向性を持っている方々、そしてしっかりと行動して取り組んでいただいている方々が一人でも多く当選してほしいと思っております。

その中にご要請があれば、できる限りの協力はしていきたいと思っております。

○ 朝日新聞 ありがとうございます。

要は党というよりも、議会でのスタンスとして会派を重視したいと。

○ 市 長 そうですね。会派というか、会派とか党派を超えて、そういう思いを持っている議員の方々をご支援するということになると思います。

その他：近隣の盆栽の盗難、大宮盆栽美術館の管理について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

ちょっと盆栽についてお伺いいたします。今月半ばに、川口市の盆栽園で盆栽の盗難被害が報告されまして、被害金額が数百万円、非常に貴重な盆栽が盗難被害に遭うという報告がございました。さいたま市でも、非常に貴重な盆栽を大宮盆栽美術館で所有しているかと思いますが、まず受け止めと市内の状況、あと盗難に関しての防止策みたいなものをお聞かせいただけますでしょうか。

○ 市 長 今回のいろいろな盗難の事件を聞き大変残念、また遺憾に思っているところでございます。

現時点でのさいたま市の大宮盆栽美術館における管理体制についてのご質問にお答えしたいと思いますが、警備体制としては、日中は、警備員を配置し盗難対策をしておりますが、また夜間については、機械警備による防犯対策をとっております、万一侵入者や不審者の出入りがあった場合には、早急に警備会社が侵入者等に対応できるようになっております。

これまでの大宮盆栽美術館における盗難や被害は、開館以来ございません。また、今回の近隣地区での盗難を受けて、改めて警備会社の方々と、侵入があった場合の警備体制、連絡体制の確認を行ったところでございます。

いずれにしても、大宮盆栽美術館が持っております盆栽、大変高価なもの、

また、貴重なものがたくさんございますので、その管理については万全を期していきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 ほかにありますか。よろしいですか。

どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。

○ 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回開催は2月1日金曜日、午後1時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後2時04分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。